

平成27年7月27日

受託候補者に対する講評

京都市美術館再整備工事設計業務受託者選定委員会
委員長 門内輝行

受託候補者の技術提案は、芸術・文化の中心施設であるとともに、都市に賑わいや憩いをもたらすことも求められる世界的な美術館の潮流を踏まえ、岡崎地域の文化・環境・景観の優れたポテンシャルを活かして、京都ならではの機能を持つ未来志向の美術館として構想されたものです。提案の特色は、神宮道に面した前庭を緩やかに傾斜させたオープンな「スロープ広場」として整備し、その正面の地下1階部分にエントランスロビーを内包したガラスのファサードである「ガラスリボン」を挿入することによって、人々を自然に美術館へと導くとともに、美術館内部の賑わい、展覧会やイベントが広場やまちに発信され、岡崎公園全体のアメニティを高める点にあります。

東山を借景とした空に溶け込むなじみある美術館本館のファサードと新館の現代的なガラスのファサードが織りなす情景は、古典芸術と現代芸術の両極を担っていく京都市美術館の再生をわかりやすく体現しています。岡崎地域全体の人の流れと滞留をつくり出すスロープ広場は、日常的には憩いの空間として、祝祭時には屋外展示やカフェのテラス席としても活用され、常に人々が集い、賑わう空間となります。敷地西側には80年以上多くの来館者を魅了してきた美術館本館への眺めを遮るものはほとんどなく、スロープ広場を観客席として、帝冠様式の本館の意匠やプロジェクションマッピング等を楽しむことができます。さらに、敷地四隅にレストラン等のアメニティ機能を配置し、広場ゾーン、親水ゾーン、庭園ゾーン等を繋ぐことで、周辺環境と連携する整備計画を提示しています。

建築計画としては、本館と新棟を結ぶエントランスロビーから本館内部に至る縦動線がポイントとなっています。美術館のゾーニング・動線上の課題を把握したうえで、来館者、サービスの動線を検討し、構造や工法等も含め説得力のある提案がなされています。中庭については、北の中庭を展示空間、南の中庭を多目的空間として再生し、本館全体にフレキシブルな動線をもたらす結節点としています。

コストについても技術提案書に工事費概算を示し、京都市が想定する予算の範囲内で実施する旨を表明するとともに、設計段階での文化財登録準備委員会設置の提言や公開承認施設を視野に入れた実施方針等の細やかな点にも配慮が認められます。また、斬新な提案に伴う様々な技術的課題についても、プレゼンテーションにおける質疑の中で具体的な検討内容が示され、受託候補者の問題解決能力や技術力を確認することができました。

総体として、時間をかけて検討を重ねていることが窺え、基本設計に向き合う受託候補者の資質や姿勢は、委員会において高い評価を得ました。今後、基本設計を進めるに当たっては、施工の工期、工費、スロープ広場における雨水対策や利用者の安全対策等の技術的課題、美術館のプログラムや運営上の課題等に柔軟に対応することが求められますが、受託候補者は、関係者と十分な対話を行い、それに応えてくれるものと思われま

す。新しく整備される京都市美術館が、世界に誇る美術館、文化芸術都市・京都の新たなシンボルとならんことを期待します。